

平成19年度建設計画実施計画に関する要望に係る対応方針

( 香南地区 )

No.	平成19年度に実施(計画・変更)要望する事業			要望の趣旨等	地区別優先順位	担当課	地域審議会からの要望に対する各部局の対応方針の概要
	主要区分	実施事業	実施事業内容				
1		県道三木綾川線バイパスルート(仮称)	県道三木綾川線バイパスルート(仮称)の整備	<p>現在の県道三木綾川線は、朝夕のラッシュ時には自然渋滞が生じ、救急車等の緊急車両の通行の妨げとなっており、その対応が急務であると、地域住民から強く望まれております。</p> <p>また、香川町と香南町を分断する香東川には、川部橋から城渡橋までの約3.1キロメートル間に橋梁がなく、交通が遮断されているほか、高松空港を結ぶ県道および市道と連携した交通ネットワークの強化が重要な課題となっております。</p> <p>このようなことから、県道三木綾川線バイパスルート(仮称)の整備を、事業主体である香川県に対して強い働きかけを要望するものです。</p> <p>また、県道川東高松線から県道千疋高松線まで延長約2.5キロメートル間については、特に緊急性を要するため、高松市として合併特例債を活用した市道による整備を要望するものです。</p>	1	都市計画課 交通政策室	<p>周辺市町も含めた広域的な交流を促し、経済・産業・文化など、様々な分野における活性化を図るためには、合併地域を含む本市全域における円滑な道路ネットワークの構築が必要不可欠と考えていることから、県道三木綾川線バイパスルート(仮称)構想の推進について、去る9月28日に香川県市長会議で県に対し、要望を行ったところであり、今後とも、早期整備に向けた積極的な要望を行っていく。</p> <p>なお、市道による整備については、現在、県において、調査費を計上し、現道の県道三木綾川線における交通量・混雑の状況等の調査予定と聞いており、その具体化については、同バイパスのルートや規格等の決定が前提となることから、県に対し、この点について、早急に検討するよう、要望していきたくと考えている。</p>
2		香南小学校改修事業	香南小学校中教室棟・北教室棟改修工事	<p>香南小学校の耐震補強および大規模改修工事については、平成15年度に国庫補助事業の認承を受け、16年度に屋内運動場を、17年度には南教室棟の耐震補強等工事を終えています。</p> <p>未改修となっている、中教室棟・北教室棟については、既に実施設計業務が完了していることから、早急な改修工事の完了を要望するものです。</p>	2	教育部総務課	<p>香南小学校の中・北校舎の耐震化については、耐震診断の結果(b)評価「大地震時に崩壊、機器類の破損等の危険性がある」であり、耐震改修の必要な建物ではあるが、高松市のb評価の建物の中では、比較的高い耐震性能を有している。しかし、合併前に既に耐震補強の実施設計も完了していることから、その点も考慮する中で、今年度中に策定する耐震化計画の中で位置付けを検討し、早急に対応したい。</p> <p>なお、改修工事については、本市は、現在、校舎等の耐震化を最優先として重点的に取り組んでいるところであり、老朽化に伴う改修は、全市的な状況を見る中で、今後、順次、取り組んでいきたい。</p>
3		香南保育所改修事業	香南保育所・幼稚園建替工事	<p>香南保育所および香南幼稚園は、昭和45年度に建設され、一部の増改築工事を行いながら現在に至っており、特に、保育所ではプレハブの保育室を借上げて保育している状況です。</p> <p>香南地区の保育所・幼稚園は、一か所ずつであり施設も隣接しているため、幼保一元化に取組むとともに、施設の老朽化が進んでいるため、保育所と幼稚園が同一建物となる建替工事の施工を要望するものです。なお、幼保一元化後における職員の配置については、適正な配置を要望するものです。</p>	3	保育課	<p>香南保育所の建替え整備については、合併協議に係る建設計画での位置付けや老朽度を踏まえ、平成19年度に建替え整備に当たって、隣接する保育所と幼稚園のあり方や、建築方法等改築に向けた基本構想を策定していきたい。</p>
		香南幼稚園改修事業				教育部総務課	<p>香南幼稚園の園舎については、昭和45年建設で高松市内の幼稚園舎の中でも最も古い施設となっていることから、平成19年度において、隣接する保育所も含めた幼保一元化も併せて検討する中で、改築に向けた基本構想を策定していきたい。</p>
4		中央公民館の改修事業	香南公民館のバリアフリー化	<p>香南公民館の耐震化工事を行うとともに、本公民館が生涯学習の拠点として、また、災害時の避難所としての機能が十分果たせるよう、バリアフリー化(エレベーターの設置、身障者用トイレの設置等)を要望するものです。</p>	4	社会教育課	<p>18年度に香南公民館を含め3館の耐震診断を行い、診断結果により耐震化対策が必要な公民館は、20年度に耐震補強工事の実施設計を行い、21年度から耐震補強工事を実施する予定である。</p> <p>また、公民館のバリアフリー化については、これまで全市的に改築や施設修繕を行う中で、必要に応じて可能なものについて整備をしているところであり、公民館が生涯学習の拠点施設として、高齢者や障害者にやさしい施設となるよう、また、より快適に利用できるよう整備を図っていきたい。</p>
5		コミュニティバス等の運行	香川町シャトルバスの路線延伸および空港リムジンバスの停留所増設	<p>高齢者、児童・生徒等交通弱者の移動手段となるよう、香川地区で運行されている香川町シャトルバスの高松空港への路線延伸を行い、香南地区内を含めた「香川・香南シャトルバス」(仮称)として、運行を要望するものです。</p> <p>また、空港直行リムジンバスの運営会社に対して、高松市から香南地区内での停留所増設の働きかけを強く要望するものです。</p>	5 (新)	都市計画課 交通政策室	<p>香川町シャトルバスの高松空港への路線延伸については、既存の路線バス由佐・池西線の運行状況などを踏まえ、今後、研究していきたくと考えている。</p> <p>また、空港直行リムジンバスの香南地区内での停留所増設については、ことでんバスに働きかけていきたくと考えている。</p>

平成19年度建設計画実施計画に関する要望に係る対応方針

( 香南地区 )

No.	平成19年度に実施（計画・変更）要望する事業			要望の趣旨等	地区別 優 先 順 位	担当課	地域審議会からの要望に対する各部局の対応方針の概要
	主要区分	実施事業	実施事業内容				
6		市道の整備	市道香川綾南線道路改良工事	市道香川綾南線の道路改良工事については、宮の下交差点から香南小学校までの間の拡幅工事を早急に完了させるとともに、未整備区間の「しげなり医院」に至る東側約30メートルの間は極端に幅員が狭くなり、朝夕の通学時間帯には大変危険であることから、早急な改良工事の施工を要望するものです。	6	道路課	市道香川綾南線道路改良工事のうち、宮の下交差点から香南小学校までについては、平成19年度に完了の予定である。同路線の未整備区間については、次期計画として、新たに代表者を決めていただき、土地所有者や水利関係者の同意が得られるようであれば、所定の要望書を提出していただくようになる。要望書が提出された後、測量・設計を行い、全ての土地分筆登記および所有権移転登記を終えてから、工事に着手することになる。平成19年度に、未整備区間の測量に着手したいと考えている。
			市道南原音谷線道路改良工事 市道城渡吉光線道路整備事業	市道南原音谷線のうち、「しげなり医院」から県道三木綾川線までの約280メートル間は開渠水路であり、交通量が多く車の対向も難しいことから、暗渠水路に変更することにより道路の拡幅を要望するものです。 また、市道城渡吉光線については、香南町時代から拡幅整備をしておりますが、西部クリーンセンターまでの未整備区間について調査費を計上し、早期整備が図られるよう要望するものです。		道路課	市道南原音谷線の水路の暗きょ化については、地先土地所有者や水利関係者の同意が得られるようであれば、自治会長等が代表者となって、所定の要望書を提出していただき、その後、測量・設計を行い、着工となる。 また、市道城渡吉光線についても、請願道路として、土地所有者や水利関係者の同意が得られるようであれば、所定の要望書を提出していただき、要望書が提出された後、測量・設計を行うこととなるが、香東川左岸堤防上の道路のため、県の工事許可協議を経て、全ての土地分筆登記および所有権移転登記を終えてから、工事に着手することになる。平成19年度に、測量に着手したいと考えている。
7		CATVの整備	CATVの香南地区へのエリア拡大	香南地区では、防災行政無線を平成5年4月より運用していますが、高松市との合併に伴い市域が拡大したものの、他地区との情報の共有はできておりません。 また、当地区の一部地域では、インターネットの利用もままならない状況であり、このような状況では、情報格差がますます拡大し、若者の定住に支障を来しているのではないかと住民から指摘されております。 このようなことから、合併特例債を活用し、高松市の直営事業として早期に香南地区をCATVの供用エリアとするよう要望するものです。	7	広聴広報課	CATVの整備については、機器管理や財源的な問題から、これまで株式会社ケーブルメディア四国が事業主体となってきた。今後、合併町への視聴エリア拡大についても、当社を事業主体と考えており、現在、事業費の算定を始め、利用者の状況や運営における採算性の把握方法、整備に当たっての国の補助や市債などの財源の検討などを、協議しているところである。 このCATV網の整備は、多額の経費を必要とすることから、株式会社ケーブルメディア四国の経営状況を踏まえ、利用料収入やランニングコスト等を含め、持続可能な整備計画（案）を策定し、主要事業計画や19年度予算審議を経る中で、整備促進に努めていきたい。